

再 評 価 調 書

		調書作成年月日		平成29年10月30日	
		事業担当課		道路課	
事業名	<small>ち いきこう き かくどう</small> 地域高規格道 <small>みやぎ けんぽくこうそくかんせんどうろ</small> 宮城県北高速幹線道路 <small>しゅうよう ちほうどうつきだてとよません</small> 主要地方道築館登米線 <small>よんき つきだてこうく どうろ かいりようじぎょう</small> IV期(築館工区)道路改良事業	補助・交付金・ 単独の別	補助	事業主体	宮城県
施行地名	<small>くりはら し わひめみなみほりぐち</small> 自：栗原市志波姫南堀口 <small>くりはら つきだてはきさわ</small> 至：栗原市築館秋沢 【位置図後掲】			管理主体	宮城県
根拠法令	道路法第56条				
事業 の 概 要	事業目的	宮城県北高速幹線道路は、宮城県北部において、栗原地域と登米地域とを結ぶ延長約2.4kmの地域高規格道路であり、IV期（築館工区）は、国道4号築館バイパスに接続し、既供用区間並びに国道398号北方バイパスを経由し登米市中心部を結ぶとともに、同時整備中のⅢ期（佐沼工区）及びⅡ期（中田工区）と一体となって、東北縦貫自動車道及び三陸縦貫自動車道（三陸沿岸道路）とともに、広域交通ネットワークを形成する道路である。 並行する宮城県内の横断軸（仙台北部道路、仙台南部道路）を補完し、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道間を最短で接続し、格子状骨格道路ネットワークの形成に寄与し、沿道の自動車関連産業等の企業立地を支援する道路である。 また、東日本大震災を踏まえ広域的な支援や東西軸を強化する「復興支援道路」として位置づけられており、その後の被災地の真の復興を図るため観光支援や地域産業復興に寄与する道路である。			
	事業内容				
	事業着手時 (平成25年度)	【計画概要】 延長 L=1.7km 道路幅員 W=6.5(8.5)m 全体事業費 C=35億円		【計画諸元】 道路規格 第3種第2級 設計速度 60km/h 計画交通量 9,000台/日	
	再評価時 (平成27年度)	【計画概要】 延長 L=1.7km 道路幅員 W=6.5(8.5)m 全体事業費 C=59億円		【計画諸元】 道路規格 第3種第2級 設計速度 60km/h 計画交通量10,000台/日	
再々評価時 (平成29年度)	【計画概要】 延長 L=1.7km 道路幅員 W=6.5(8.5)m 全体事業費 C=69億円		【計画諸元】 道路規格 第3種第2級 設計速度 60km/h 計画交通量10,000台/日		

【事業内容の変更状況とその要因】（再々評価時）

- ・ 関係機関協議により、橋梁架設計画の見直しを行うもの。
- ・ 工事区間周辺の市道等の工事用車両増加に伴う舗装補修が必要となったもの。
- ・ 床堀残土の路体流用にあたり、セメント改良を行うもの。

事業費

	全体事業費		費用負担内訳			
		内用地費 及び 補償費	国	県	市町村	その他
			[55 %]	[45 %]	[- %]	[- %]
事業着手時 (平成25年度)	35.0 億円	6.2 億円	19.25 億円	15.75 億円	- 億円	- 億円
再評価時 (平成27年度)	59.0 億円	3.0 億円	32.45 億円	26.55 億円	- 億円	- 億円
再々評価時 (平成29年度)	69.0 億円	3.0 億円	37.95 億円	31.05 億円	- 億円	- 億円

※事業費増加度（重点評価実施基準 指標4）

$$= \frac{\text{再々評価時事業費} - \text{再評価時事業費}}{\text{再評価時事業費}} = \frac{69.0\text{億円} - 59.0\text{億円}}{59.0\text{億円}} = 0.169 = 16.9\%$$

【事業費の変更状況とその要因】（再々評価時）

- ・ 関係機関協議により、橋梁架設計画を見直したこと等による増額（6.9億円）
- ・ 工事区間周辺の市道等の工事用車両増加に伴う舗装補修費の増額（2.7億円）
- ・ 床堀残土の路体流用のためのセメント改良費の増額（0.6億円）
- ・ 盛土材の一部を購入土から流用土に変更したことによる減額（△0.2億円）

	新規着手時 (平成25年度)		再評価時 (平成27年度)		再々評価時 (平成29年度)		増減		変更の主な理由
	事業費	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		68.3% 23.9億円		89.1% 52.6億円		90.8% 62.6億円		100% 10.0億円	
道路改良工	1.7 km	23.9億円	1.7 km	52.6億円	1.7km	62.6億円		10.0億円	橋梁架設計画の見直し等、舗装補修費等
測量及び試験費	一式	14.0% 4.9億円	一式	5.8% 3.4億円	一式	4.9% 3.4億円			
用地費及び補償費	一式	17.7% 6.2億円	一式	5.1% 3.0億円	一式	4.3% 3.0億円			
その他工事費等									
合計		100% 35.0億円		100% 59.0億円		100% 69.0億円		100% 10.0億円	

事業の進捗状況	規則第24条第1号関係
---------	-------------

○事業期間

事業着手時 (平成25年度)		再評価時 (平成27年度)		再々評価時 (平成29年度)	
事業採択予定年度	H.25年度	事業採択年度	H.25年度	事業採択年度	H.25年度
用地買収着手予定年度	H.26年度	用地買収着手年度	H.26年度	用地買収着手年度	H.26年度
工事着手予定年度	H.26年度	工事着手年度	H.26年度	工事着手年度	H.26年度
		計画変更実施(予定)年度	-	計画変更実施(予定)年度	-
完成予定年度	H.29年度	完成予定年度	H.30年度	完成予定年度	H.30年度

※事業停滞年数(重点評価実施基準指標1) = 0年

※事業工期延伸度(重点評価実施基準指標3) = (変更後予定事業期間) / (当初予定事業期間) = 6 / 6 = 1.00

○進捗率

平成29年度までの		※(): 前回再評価時	
事業費	進捗率	内用地費 及び補償費	進捗率
(21.2億円)	(35.9%)	(2.2億円)	(73.3%)
51.2億円	74.2%	3.0億円	100.0%

※事業工程乖離度(重点評価基準指標2)

$$= (累加投資事業費 / 現全体事業費) - (累加年単純割額 / 現全体事業費)$$

$$= (51.2 / 69.0) - ((69.0 \div 6) \times 5) / 69.0 = \Delta 0.09 = \Delta 9.1\%$$

【事業の進捗状況(順調でない場合にはその要因)】

平成28年度内で用地補償が完了しており、これまでに道路改良工事10件、橋梁工事7件を発注済みである。平成29年度末までに道路改良工事6件、橋梁工事5件が工事完了の見込みである。

現在、平成30年度の事業完了に向け鋭意、工事の推進を図っている。

【今後の進捗の見込み(事業スケジュール表後掲)】

今後、残工事(舗装工・付属施設工)を発注し、平成30年度の事業完了を見込む。

	施設管理の予定・管理状況	<p>事業区間の道路施設は宮城県が管理することになる。</p> <p>事業区間の盛土法面端部（法肩部）は防草対策を施工し、将来の除草費用の低減を図る。</p>
--	---------------------	---

事業の必要性	上位計画等	<p>①宮城の将来ビジョン・震災復興・地方創生実施計画（平成28年度改訂） 「県土の復興を支える、みやぎ県北高速幹線道路の整備を推進し、地域間連携の強化を図る。」と本事業の整備を掲げている。</p> <p>②栗原市総合計画（平成23年度改訂） 国道4号築館バイパスや、みやぎ県北高速幹線道路など、高速交通網の結節点となる、東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域を、新たに中核機能地域として、位置付け、将来的な市民ニーズへの対応や、交流人口の増加を図るために必要な施策を講じます。</p> <p>③栗原市都市交通マスタープラン（平成20年12月策定） 「広域連携軸の強化」「都市施設整備の実現化方針」として、みやぎ県北高速幹線道路の整備促進を、関係機関に要望していくとしている。</p>	
	事業を巡る社会経済情勢等	規則第24条2号関係	
	○社会経済情勢	<p>宮城県北幹線道路については、県においてⅡ期（中田工区）、Ⅲ期（佐沼工区）、Ⅳ期（築館工区）を整備中であり、平成32年度完成予定としている。</p> <p>また、三陸縦貫自動車道については、国直轄事業にて整備中であり、平成29年3月20日に南三陸町の南三陸海岸ICまで供用済みであり、平成29年度内に歌津IC、平成30年度には（仮称）卯名沢ICまで供用開始予定となっている。</p> <p>※現況交通（H27センサス） 2,267～15,942台/日（(主)築館登米線）</p>	
	○地元情勢、地元の意見	<p>現道（主）築館登米線及び（一）若柳築館線の一部は線形不良箇所が存在するが、当該道路を整備することで、円滑で安全な通行が確保されることになる。</p> <p>また、当該道路は、三陸縦貫自動車道へのアクセス機能をもつため、地域の防災力向上に寄与し、かつ都市圏からの交流人口の増加も期待されることから、地元から早期完成が望まれている。</p> <p>※みやぎ県北高速幹線道路建設促進期成同盟会（会長 登米市長） 平成27年11月 4日提出 みやぎ県北高速幹線道路建設促進に関する要望書 平成28年 8月22日提出 みやぎ県北高速幹線道路建設促進に関する要望書</p>	

	事業効果	
	<p>○効果の発現状況 現時点で供用している箇所がないため、まだ整備効果の発現には至っていない。</p> <p>○想定される事業効果</p> <p>①車両通行の安全の確保 現道（主）築館登米線及び（一）若柳築館線の一部は宮城県平均を上回る事故率の区間が存在するが、通過交通が排除され、（一）若柳築館線では交通量が最大7,400台/日減少するなどにより交通事故の減少が見込まれる。</p> <p>②高規格幹線道路へのアクセス向上 当該道路は、東北縦貫自動車道及び三陸縦貫自動車道（三陸沿岸道路）を最短で結ぶ路線となるため、両路線へのアクセス向上及び定時性が確保される。</p> <p>③救急医療施設へのアクセス向上 当該道路を経由することで、地域の第三次救急医療施設（石巻赤十字病院）へのアクセスが向上する。</p> <p>④緊急輸送道路としての機能 東日本大震災発災後、当該道路の供用済区間（I期）を経由し、三陸沿岸部と内陸部（東北縦貫道、一般国道4号）を接続し復旧を支援した。</p>	
事業の効率性	関連事業の概要・進捗状況等	
	<p>①三陸縦貫自動車道の整備：事業主体 国土交通省 仙台港北IC～南三陸海岸IC（平成29年3月20日 開通）</p> <p>②国道4号築館バイパスの整備：事業主体 国土交通省 栗原市築館外南沢地内～市道栗原中央線交差点部（平成27年12月13日開通） ※一部、暫定供用区間含む。</p>	
	代替案との比較検討	規則第24条第3号関係
	住民説明会で概ねの合意を得ており、代替案の検討はない。	
	コスト削減計画	規則第24条第4号関係
	<p>道路建設のコスト削減については、以下の項目でコスト削減を図った。</p> <p>①道路規格の見直し、幅員縮小（前回） 道路規格について、事業着手前はI期間（供用済）と同一である第1種第3級を想定していたが、「地域高規格道路の構造要件」の見直しを踏まえ、事業着手時に第3種第2級に変更し、幅員をW=12.0mからW=8.5mに変更した。 工事費▲15億円、用地費▲1億円</p> <p>②橋梁延長の見直し 東北縦貫自動車道に架かる跨道橋について、当初は橋脚を設けず側道も含めた1径間で跨ぐ計画としていたが、各道路管理者との協議の結果、側道の建築限界をH=4.7mからH=3.0mへ縮小することが可能となったため、橋長を短縮すべくラーメン式橋台に変更し、橋梁工事費の削減を図った。 工事費▲1.3億円 ※参考（当初）橋長L=67.4m（逆T式橋台 2基） （前回）橋長L=53.0m（ラーメン式橋台 2基）</p> <p>③購入土から流用土への変更 宮城県北高速幹線道路II期（中田工区）道路改良事業からの発生土をV=15,000m³受け入れることで土工費のコスト削減を図った。 工事費▲0.2億円</p>	

費用対効果 規則第24条第5号関係

根拠マニュアル：費用便益分析マニュアル（国土交通省 道路局 都市・地域整備局）
 （平成20年版）

社会的割引率： 4 %

便益算定期間： 50 年

区 分	事業着手時 基準年（平成24年）	再評価時 （平成27年）		再々評価時 （平成29年）		
		<全体>	<残事業>	<全体>	<残事業>	
費 用 項 目	建設費	35.0億円	59.0億円	37.8億円	69.0億円	17.8億円
	維持管理費	2.5億円	2.4億円	2.4億円	2.4億円	2.4億円
	総費用	37.5億円	61.4億円	40.2億円	71.4億円	20.2億円
	現在価値（C）	30.7億円	56.8億円	34.5億円	72.0億円	18.1億円
便 益 項 目	走行時間短縮便益	129.1億円	189.2億円	189.2億円	188.9億円	188.9億円
	走行経費減少便益	24.8億円	39.1億円	39.1億円	39.0億円	39.0億円
	交通事故減少便益	13.5億円	12.5億円	12.5億円	12.5億円	12.5億円
	総便益	167.4億円	240.8億円	240.8億円	240.4億円	240.4億円
	現在価値（B）	61.1億円	97.3億円	97.3億円	105.1億円	105.1億円
費用便益比（B/C）		1.99	1.71	2.82	1.50	5.80

事業の効率的性

【便益の概要、主な算出根拠等】

現況交通（H27センサス） 2, 267～15, 942台/日（（主）築館登米線）

計画交通量 10, 000台/日

※算出便益

- 「走行時間短縮便益」：道路の整備の有無による総走行時間費用の差で表す便益
- 「走行経費減少便益」：道路の整備の有無による走行経費（燃料費や車両償却費等の走行条件により改善される経費）の差で表す便益
- 「交通事故減少便益」：道路の整備の有無による社会的損失（交通事故による人的、物的損失等）の差で表す便益

【前回再評価時との違いの要因】

○全体事業費の増（59億円→69億円）

- ・東北縦貫道を横過する後沢本線橋上部工事において、近年の高速道路上での橋桁落下事故の発生等を踏まえ、関係機関との協議により、架設クレーンの規格等を変更するもの（6.9億円増）
- ・工事区間周辺の市道、農道において、工事用車両の交通量増加に伴い、舗装に損傷が生じたため、舗装補修費が必要となったもの（2.7億円増）
- ・構造物等の床堀残土を路体流用で見込んでいたが、軟弱土であり強度増加のためセメント改良処理を行ったもの（0.6億円増）
- ・盛土材の一部を購入土から流用土に変更したもの（0.2億円減）

環境への影響と対策	地域指定状況等
	特になし
	影響と対策
	<p>道路改良の盛土法面において緑化を行う。 低騒音振動重機を利用し、周辺環境への騒音・振動に配慮する。</p>

再 評 価 部 会 意 見 へ の 対 応 状 況	再評価実施状況		
	再評価実施年度	平成27年度	
	答 申	答 申	継続妥当
		条 件	なし
		別紙意見	<p>1 審議対象事業の実施に関する意見 復興支援道路としての目的の速やかな実現のため、迅速な施工を行い、早期完成に努めること。 なお、将来的には、東北縦貫自動車道との接続など、道路ネットワークの効率性を高めるための方策が検討されることを期待する。</p> <p>2 今後の事業実施に関する意見 (1) 事業全般 地質調査結果の蓄積、庁内における情報共有、さらなる技術力の向上を図ることなど、事業費の見積りの精度を高めるための方策について検討すること。 (2) 道路事業 事業の計画及び実施にあたっては、県土全体の道路ネットワークにおける当該事業の位置付けを明確にし、より高い事業効果の発現に努めること。</p>
	評 価 結 果	評価結果	事業継続
		対応方針	なし
		別紙意見 に対する 対応方針	<p>1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 今後の建設工事に当たっては、復興支援道路としての目的の速やかな実現を図るべく、迅速な施工を行い、早期完成に努める。 また、供用後の利用状況や社会経済情勢の変化等も踏まえながら、道路ネットワークの効率性を高めるための方策について、必要に応じて検討を行う。</p> <p>2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 (1) 事業全般 地質調査の結果等のデータベース化を進めるとともに、庁内における情報共有やさらなる技術力の向上など、事業費の見積りの精度を高めるための各種方策について検討する。 (2) 道路事業 事業の計画及び実施の各段階において、県土全体の道路ネットワークにおける当該事業の位置付けを明確にし、より高い事業効果の発現に努める。</p>

再 評 価 部 会 意 見 へ の 対 応 状 況	現在の対応状況
	<p>1 審議対象事業の実施に関する意見への対応状況 現時点で全区間で道路改良工事を発注しており、平成30年度の完了を見込み、鋭意、工事の進捗を図っている。 また、本道路の事業効果を最大限に発揮するための方策として、現在、別事業として、東北縦貫道と宮城県北高速幹線道路の接続の事業化に向け、国土交通省等の関係機関と調整を行っている状況である。</p> <p>2 今後の事業実施に関する意見への対応状況 (1) 事業全般 設計時の地盤状況の把握のため、宮城県が幹事として参加している東北地盤情報システムみちのくGIDASの運営協議会では、国、県、市町村が保有する地質データを集約・蓄積し、実務的な運用に向けデータベースの充実を図っていく。 また、職員の技術力の向上においては、様々な施工事例を技術研究発表会や職場内研修で発表し、職員の情報共有、技術力の研鑽に努めている。</p> <p>(2) 道路事業 本事業は、東北縦貫道と三陸縦貫自動車道を最短で接続する広域交通ネットワーク、震災により被災した沿岸部と内陸部を結ぶ広域的東西軸を担う重要な事業であり、宮城県としては、復興支援道路として、位置付け整備を進めていくものである。 さらに東北縦貫道とみやぎ県北高速幹線道路の接続は、時間短縮効果による利用者の利便性向上はもちろん、地域産業の支援（自動車関連産業・観光・水産業）、防災ネットワーク・緊急医療ネットワークの強化に大きく寄与し、本事業のより高い事業効果の発現につながる。</p>
総 合 評 価	対応方針（案）
	事業継続

○事業スケジュール表

ちいきこうきかくどうろ みやぎけんほくこうそくかんせんどうろ
 地域高規格道路 宮城県北高速幹線道路

しゆうちほうどうつきだてとよませんよんき つきだてこうく どうろかいりようじぎよう
 主要地方道築館登米線Ⅳ期（築館工区）道路改良事業

事業スケジュール表

項目	年度							
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
調査・設計	■	■						
用地・補償		■	■					
工事		■	■	■	■	■		

業務着手時	■
再評価時	■
再々評価時	■

位置



図

